

第1回三次・安芸高田・広島まちづくり交通協議会 議事概要

日時：令和6年5月31日（金） 10:00～11:15

場所：JMSアステールプラザ 2階多目的スタジオ

出席者：委員13名、オブザーバー1名

広島広域都市圏の構成市であり、JR芸備線沿線に位置する三次市、安芸高田市、広島市は、3市が一つの経済体として広域的に連携し、それぞれが主体的なまちづくりに取り組むための抜本的対策の一環として、三次駅～広島駅間の鉄道及び関連諸施設の在り方を含め、JR芸備線を軸とした公共交通ネットワークを将来にわたり地域住民に利活用されるものにしていくことについて議論するために「三次・安芸高田・広島まちづくり交通協議会（仮称）」を新たに設置し、開催したところ、議事概要は以下のとおり。

1 開会

2 議事（1）「三次・安芸高田・広島まちづくり交通協議会」の設置について

庶務から、資料1により、三次・安芸高田・広島まちづくり交通協議会設置要綱（案）について説明し、委員が設置要綱（案）を承認

3 会長選任

加藤委員（学識経験者）から、まちづくりや地域計画を専門とし、協議会の経験が豊富である福山市立大学渡邊委員を推薦され、各委員が承認

4 会長あいさつ

- ・人口減少、少子高齢化社会を迎えている昨今、都市計画の世界では集約型都市構造、機能をコンパクト化し、なおかつそこをネットワークで結ぶコンパクト+ネットワークの都市構造にしていくということが言われている。
- ・そういった中で市町村においては、立地適正化計画、地域公共交通計画で、コンパクト+ネットワークの部門別計画を作っているところである。
- ・一方、日常的な生活を考えると、自分の市町だけで生活できているかというと、そのようなことは実際なく、安芸高田市の人が広島市に行ったり、あるいは広島市に住んでいる方が安芸高田市で働いていたり、市をまたぐ広域的な移動、生活圏が形成されていることはお分かりいただけることかと思う。
- ・協議会では、広域的な生活圏あるいは都市構造をどのように考えていくのか、その中でも特に集約型都市構造を支える交通のあり方について考えていくと認識している。

- ・特に広島広域都市圏の中でも、芸備線の沿線の3市におけるコンパクト＋ネットワークのあり方を広域的に考えていくと認識しているため、それぞれの立場から、忌憚のないご意見をいただければと思う。

5 監査委員の指名

会長から、監査委員に笹岡委員（三次市）が監査委員に指名され、笹岡委員が承諾

6 議事（2）芸備線（三次駅～広島駅間）の現状について

JR西日本広島支社 奥井委員から、資料2により芸備線の現状について説明、以下の委員より発言があり、奥井委員より回答

【山田委員（広島市）】

- ・説明の内容を聞き、芸備線を取り巻く現状の厳しさを再認識した。
- ・本市は、芸備線に限らず、鉄道、バス、航路、路面電車といった様々な交通モードを有している。
- ・こうした公共交通機関は各事業者の日々の並々ならぬ努力により運行されてきており、その長年にわたるご努力に対し、感謝と敬意を申し上げる。
- ・近年、人口減少の影響に加え、コロナ禍による移動需要自体の激減により、いずれのモードも大変困難な状況に置かれている。
- ・市民の皆様の移動の自由を保障する上で、地域住民の足を維持確保していくことは、今後とも極めて重要だが、他方で、今後の人口予測等を踏まえると、ただ漫然と一過性の利用促進イベントを単発で行うだけでは限界があり、通勤・通学等における利用を受動的に待っているのでは、将来的な持続可能性を期待することはできない。
- ・まずは、各市であるべきまちの姿を主体的に考えた上で、芸備線を単なる鉄道施設としてとらえず、各駅の「点」としての機能、路線自体の「線」としての機能、移動によって生じる地域への「面」的な効果を、他の分野や事業との連携の可能性なども含めて見つめなおし、新たな利用ニーズの創出も含め、芸備線を活用して新たなヒト・モノ・カネ、更には情報の循環を生み出すような取組へとつなげていきたい。

【加藤委員（学識経験者）】

- ・三次市出身であり、以前から芸備線を利用している。利用状況の数値も、実感とほぼ同じである。
- ・芸備線や福塩線は、高校生らの通学利用が多い印象であるため、鉄道の輸送力が発揮されている部分と思っているが、数字で見るとかなり利用者が減ってきていることも確認できた。
- ・「行き違い設備が増えれば輸送量を増やせる」ということであるが、整備費用、工期はそれぞれどれぐらいでできるものなのか。

- ・甲立駅にこ線橋があるが、高齢者や身体の不自由な方が利用するのに大変だと聞く。構内踏切等への改修は考えられるものか。
- ・定期外利用の具体的な目的等を掴んでおられれば、今後提供していただきたい。
- ・3市には様々な観光資源等があるため、例えばインバウンドの利用を伸ばせる余地があるかもしれない。利用者等の属性がわかると良い。
- ・交通産業でドライバー不足が言われるが、鉄道業界の状況を教えていただきたい。
- ・快速「みよしライナー」を増便されているが、利用状況はどのようなものか。快速列車は速達性があるから利用者が多いのか、経営上の見立ても聞きたい。
- ・「どっちも割りきっぷ」のような割安切符の利用は、今まで芸備線や高速バスを利用している人が移行したものなのか、新規の需要なのか検証結果があれば教えていただきたい。

【奥井委員（JR西日本）】

- ・行き違い設備について、駅の設置場所や駅周辺の状況によるが、少なくとも10億円単位、工期は年単位の期間が必要である。
- ・甲立駅について、現時点で改修する計画はないが、沿線市や地域の皆様とのまちづくりの話の中で検討していくものと考ええる。
- ・定期外のご利用について、観光利用やイベント等でご利用いただいている。
- ・鉄道業界においては、将来を見据えると運転士不足も懸念されるが、特に線路の保守管理に係る技術者の不足が見込まれている。
- ・快速「みよしライナー」のご利用状況は、三次へ観光で訪れる方が多く、好評いただいている。
- ・「どっちも割りきっぷ」について、ご利用者の声を聞くと、新規の需要があったと推定している。

7 議事（3）今後の流れについて

庶務から、資料3により協議会の今後の流れについて説明、以下の委員より発言

【松尾委員（広島市）】

- ・今年度、安佐北区の高陽地域・白木地域において、住民が主体となり広域的視点に立ち、両地域を一体と捉えたまちづくりを実現するための「高陽地域・白木地域の活性化プラン」の作成に取り組んでいる。
- ・活性化プランは、ワークショップで各地域の現状や地域資源に関する意見交換などを行い、芸備線の利用促進という観点を含め、両地域を一体的に捉えたまちづくりについて議論し、その結果を踏まえ作成する。
- ・協議会での「3市連携したまちづくり」の検討に、この活性化プランの策定に向けた進捗状況を共有し、地域におけるまちづくりの動きと芸備線の利用促進の検討が連携して動くようにしていきたい。

【矢野委員（三次市）】

- ・芸備線の利用状況について、2022年のOD調査にて、三次駅から下深川駅間の利用者の38.8パーセントが18歳以下、全体の44パーセントが通学利用という結果が出ており、多くの学生が利用をしている。
- ・最も利用している学生にとって便利の良い、利用しやすい鉄道の構築が重要なポイントとなると考えている。
- ・地元の高校生が芸備線の利用促進をテーマに学習をする取り組みを行っている。
- ・高校生が有志で活動する「芸備線を盛り上げる会」といったものもある。この会は、芸備線の知名度の向上や地域の人に関心を持ってもらう活動など、主体的に芸備線の活性化に取り組んでいる。
- ・学生の意見を芸備線の活用に取り入れていただくことも検討していただきたい。

【高下委員（安芸高田市）】

- ・協議会での取り組みについては早く進めて、この芸備線をどうする、どうしていくかということについて決めていきたい。
- ・予定では令和7年度には法定協議会に移行し、そこから具体化してとなっているが、ここがどのように決まっていくかが、非常に重要だと思っている。
- ・安芸高田市は広島市と三次市の間にあり、両方の市に繋がるという意味で非常に重要な路線だと考えている。
- ・市内で完結するような形にはなっていないくて、安芸高田市のような小さな町であれば、周辺の市町、特に広島市、三次市と連携が必要。
- ・どのように維持し、路線を利用してもらい、使える路線にしていくかが必要。
- ・安芸高田市から広島市まで1時間少しかかるので、もう少し早くつくようになれば良いし、夜も、もう少し遅い時間まで使えると良いとか、どうすればそのようにできていくかをこの場で色々と決めていければ良い。
- ・人口減少が進んでいく中で、それを実現するためには、今のままをそのまま守った上で実現するのは難しいだろうと考えているため、私たちが目指すべきところ、どこを守っていくか、どこはもう諦めるしかないとするかというところの見分け、判断をし、早くどういう方向にしていくのかをここで決めたい。

8 議事（4）調査委託内容の方向性について

庶務から、資料4により調査委託内容の方向性について説明、以下の委員より発言

【靱委員（中国運輸局）】

- ・本委託調査について、国土交通省の地域公共交通再構築調査事業を活用して実施することとなっており、すでに交付決定もしている。
- ・事業の趣旨として、地域の交通計画について、国も主体的に関与し、鉄道事業者と沿

線自治体との共創を促し、単なる現状維持ではなく、持続可能性と利便性の高い地域公共交通の再構築を促進することを目的としている。

- ・この協議会においても、趣旨に則り、調査事業制度を積極的に活用し、良い計画を立てていただきたい。

9 その他

議事終了後に、以下の委員及びオブザーバーから発言し、会長の見解

【加藤委員（学識経験者）】

- ・先ほど、高陽、白木の両地域の活性化プランの策定が始まる話があり、大変期待している。
- ・広報誌「ひろしま市民と市政」の中での紹介で、地域の方が他の地域の取り組みを見学に行く際に公共交通を使うと、その費用を広島広域都市圏協議会(事務局：広島市)として補助するという制度があることを知った。沿線地域に限らず、様々な地域の方が公共交通を利用して行かれるとよいので、PRして広めていただければと思う。
- ・この協議会は、“芸備線”を協議会の名称に冠せず、まちづくり交通協議会としているところがポイントと思う。
- ・広島市で「広島広域都市圏発展ビジョン」を策定されており、この2024年3月に改訂された第2期のビジョンがあるが、200万人の都市圏を維持していこう、盛り上げていこうという計画になっており、どこに住んでも安心して暮らしやすい都市圏を創るという中に、公共交通のネットワークも位置付けられている。
- ・さらに、安心面（生活面）だけでなく、地域の人やモノやお金や情報が循環していくという、その経済面のインフラといった面でもこの芸備線が位置付けられると思う。
- ・こうした広域都市圏の発展ビジョンや、まちづくりの様々な計画は、芸備線について議論する時に参照できるものとする。
- ・この都市圏で様々なことを連携して取り組んでいく中で、都市圏の共通ポイント（としぽ）を、芸備線を利用して移動等をするとうポイントが溜まり、お店で使えるというような形で循環させ、JR西日本のWESTERなど、様々なMaaS系のアプリとうまく融合していき、そうしたインフラの整備と併せて、利便性やお得感も向上していければと思う。

【奥井委員（JR西日本）】

- ・芸備線においては、長年、沿線自治体の皆様に構成される「芸備線対策協議会」をはじめとした地域の方々に、活性化に取り組んでいただき、改めて感謝申し上げます。
- ・特に2018年の西日本豪雨による被災を契機に、沿線自治体の皆様と芸備線や沿線地域の活性化に向けて、継続的に対話を重ねてきた。
- ・芸備線「広島～三次駅間」については、2018年豪雨・コロナを経てご利用の戻りが低

調であり、また、大量輸送という観点での鉄道の特性が発揮できていない区間も含まれているところだが、このような現状を受け止めていただき、この度、沿線3市の自治体の皆様が主体となって、今後のまちづくりについて議論を行う柱の一つとして、芸備線を取り上げていただき、公共交通ネットワークについてご議論いただけることに大変ありがたく感じている。

- ・今後の検討にあたっては、3市が連携したまちづくりに係る検討に加え、芸備線の利便性向上に資する機能強化策なども検討メニューとして取り上げていただいている。
- ・当社としても既存データの提供にとどまらず、まちづくりのお役に立てる具体的な検討を積極的に進めていく所存である。
- ・公共交通事業者として地域のまちづくりに寄与する公共交通ネットワークを構築するだけでなく、持続可能な地域社会の実現に向けて、地域の活性化に貢献していきたいと考えており、引き続き皆様方との一層の連携をお願いする。

【オブザーバー 三島様（広島県）】

- ・本県としては、交通は持続可能まちづくりの重要な手段と捉えており、この任意協議会の議論にしっかりと参画し、連携してまいりたい。
- ・備後庄原駅～備中神代駅間を特定区間とする再構築協議会が設置されているため、その議論の状況について共有する。
- ・ご承知のとおり、「芸備線再構築協議会」は、本年3月、全国初の再構築協議会として設置され、議論が始まったところであり、本県からは、JRの経営状況を踏まえた内部補助によるローカル線の維持や、全国的な鉄道ネットワークの必要性などについて、意見を述べているところである。
- ・また、5月16日に開催された幹事会においては、今後の再構築協議会の議論に当たる共通認識として、持続可能な地域社会の実現に向けて、沿線地域のまちづくりや観光振興の視点も含めて、議論していくことが共有された。
- ・冒頭申し上げたとおり、地域公共交通の維持は、まちづくりにとって必要不可欠なものであることから、こうした共通認識を持ち、関係者がともに議論し、取り組んでいくことは、大変重要であり意義深いものと認識している。
- ・この任意協議会も、まちづくりの観点から議論が行われるため、両協議会の方向性は一致しているものと考えており、両協議会の取組が相互に影響を与えることにより、庄原市を含めた、芸備線沿線地域全体の持続可能性が高まっていくものと認識している。
- ・こうした認識の下、3市が行われる取組に積極的に協力したいと考えており、今後、昨年度策定した「広島県地域公共交通ビジョン」の考え方や、県が保有する「モビリティデータ連携基盤」などについても、御活用いただければと考えている。
- ・また、任意協議会と再構築協議会の連携として、調査事業や実証事業などにおいて、具体的にどのような連携ができるのか、今後、皆様とともに検討や議論をさせていただきたい。

【渡邊会長（学識経験者）】

- ・これから人口がかなり減り、高齢化も進む中で、どのように持続可能な都市圏を形成していくのかということは喫緊の課題だと思う。
- ・関係深い3市であるため、その中での人の動きや経済的な動きも踏まえながら、これからのまちづくりを考え、その中で交通についても考えていくことが大事である。

10 閉会